糸島人 Itoshima Bito vol.15

未来への展望を感じる糸島の地から、世界へ「知」を発信する

「懐庵」で生きる意味を追究する数学研究者
森田 真生さん（京都府在住／26歳）

理論だけでなく、体を使った「楽しい数学」を実践する森田さん

東京大学理学部数学科を卒業後、在野の数学研究者として活躍する森田さん。一昨年、知り合いの紹介が縁で、志摩の山中に数学道場「懐庵」を開いた。ここでは「糸島懐庵サファリパーク」をはじめ、各界の著名人による講演会が定期的に展開されており、これまで招かれたゲストには、養老孟司（解剖学者）、甲野善紀（古武術家）、茂木健一郎（脳科学者）、内田樹（思想家）、中沢新一（宗教学者）（※敬称略）など、いわゆる一流と呼ばれる人々が名を連ねる。

「異分野間のトークセッションが楽しいんです。あえて筋書きを作らないから予定していないことが起こる、その不都合が面白い」と語るように、各分野の専門家が「講演会」用に準備した分かりやすい話をするのではなく、ありのままをさらけ出す。参加者からの発言も自由。トークが行われている間、外では薪割りや火起こし体験、ファッションショーが行われるなど、内容がとにかく刺激的だ。「学問とは、未知の領域を知識で埋めていくことではないと思うんです。知と未知がぶつかり合う境界に熱いエネルギーのようなものがあって、そこに踏み込んだときにいろいろなことを学ぶことができる。参加者が体を動かしながら、みんなで未知に触れて自然発生的な学びを体験する場、それが懐庵です」。

一般的には「数学」と聞くと専門性が高く、敬遠してしまう人も多い。しかし森田さん曰く、「数学は、一つの点を知ることが無限の空間を感じることにつながったり、何もないところから何かが生まれたりする、そんなことが起こり得る世界。数学はよりよい人生を探求するための道具として大きな可能性を秘めている」と、笑顔で語る彼の姿が、数学を使って「生きるとは何か」を問い続ける哲学者のようにも見えてくる。

森田さんが、こうした取り組みの拠点に糸島を選んだ理由。それは都市近郊でありながら自然豊かで、美味しい食がある「土地力」と、素朴な中に個性溢れる「人間力」に魅かれ、「この地に未来への展望を感じた」からだそうだ。

森田さんの魅力に呼応して、今後も国内外のさまざまな研究者たちが糸島「懐庵」に集うだろう。新たな「知」の発信地として、ますます目が離せない。

新たな発見が生まれるトークセッション。
最奥左から森田さん・甲野さん・内田さん

（注）「懐庵」は私有地内にあり、場所は公表されていません。お問い合わせなどは、株式会社Saint Cross ☎（432）5738までお願いします。

EVENTS IN ITOSHIMA

博多大丸で糸島「はるか」をPR

春を呼ぶ“糸島のめぐみ”フェアを開催

福岡市天神の博多大丸で3月24日～25日に、糸島産のみかん「はるか」を使ったお菓子の販売促進イベントを開催しました。

今回のイベントで販売した商品は、昨年7月から二丈の福ふくの里で販売している「まるごとジュレ」「コンフィチュール」「クリームサンド」の3品で、試食の提供も行いました。

会場では、商品を買ったり、「いとゴン」と記念写真を撮ったりと買い物客でにぎわっていました。

いとゴンの強力なアピールで、たくさんの買い物客を引きつけていた

ブレイク必至! 船越生まれの漁業戦隊フィッシャーマンたち

「軽トラ市」来場者2万人突破！

いとゴンやご当地戦隊ヒーローたちが祝福

3月25日に行われた、唐津街道前原宿「軽トラ市」。この日は、来場者2万人突破を記念して、漁業戦隊フィッシャーマンらヒーロー・ヒロインたちもお祝いに駆け付けてくれました。

このヒーローたちの出演・脚本・衣装作成など、すべて引津保育園の保育士さんたちによるもの。子どもから大人まで楽しめるよう演出も工夫され、コミカルで笑いの絶えないショーに、多くの買い物客が足を止めて見物していました。

糸島の農業に新たな若い力

平成23年度の新規就農者は20人

糸島の農業従事者の高齢化問題が叫ばれている中、今年も「地元で農業を始めたい」と新たな若い力が仲間入りしました。

市は、そんな新規就農者を全面的にサポートするため、お互いが抱えている悩みや想いなどを語り合える懇談会を3月28日に開催しました。

就農者は、会社を辞めて農業を始める人や、家の農業を継ぐ人などさまざまで、合計20人が一堂に会し、横のつながりを強めていました。

これからの糸島の農業を引っ張ってくれることでしょう